

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	1月	25日	(記入者) 井本 正美	
取材参加者	井本	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：旧田中家住宅				

所在地	奈良市五条町204-1				
所有者(取材 対応者)名	奈良市 取材対応者 ***様 奈良市教育委員会)(個人情報守秘)		所有者連絡先 奈良市		
			TEL 0742-34-5369		
取材申込	申込先：奈良市教育委員会事務局 教育部 文化財課 指定文化財係				
市町村 指定文化財	彫刻	軀	名称(指定年月日)		
	建造物	1棟	旧田中家住宅 1982(昭和57)年6月8日指定		
文化財指定理由	江戸時代後期の18世紀末～19世紀始め頃の建築と推定され「法蓮造民家」と呼ばれる農家建築のうち、現存最古のものと見られる。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	建屋内元牛小屋壁面に火災受信機(2023年9月13日点検済証)が設置されており、警備会社と連携されていて失火時には速やかな対応ができる仕組みになっている。	同敷地に隣接する奈良市都跡公民館の方も旧田中家の管理には注意を払ってられるそうで、防火対策等に不安はないと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	烏に屋根の茅を抜かれた形跡らしいものは見られたが、アライグマ等の侵入や被害は確認されていない。	同上の環境下にあるので全く心配ないと思われる。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	1982(昭和57)年に解体された同旧家は、1990(平成2)年に現在地に移築し、復元された。時代の変遷・家族構成・生活様式の変化に伴い牛小屋が車庫に替わり畳敷きの部屋が新設されたりと多くの改造があった。移築にあたっては可能な限り建築当初の状態に復元されている。ニワのかまどは子供たちの体験学習で実際に使用され、綺麗に管理されている。ただ、茅葺屋根の傷みは少々気がかり。人口の減少と共に特に茅葺職人の減少はよく耳にする話であるが文化財保護の面からしても大きな問題であり、奈良市としても保存修理には苦慮しているようである。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

同敷地内に立つ「昔のくらし館」と共に、現状を保存するには費用は勿論のこと茅葺職人や大工職人の減少も大いに気がかりである。法蓮町(旧法蓮村)には今も、屋根はトタンを被せてあるものの立派な法蓮格子を持った「法蓮造民家(居住中)」を見ることができる。日本の貴重な民家建造物を保存していくことも、古都奈良の大きな責務だと思う。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	1月	25日	(記入者) 井本 正美	
取材参加者	井本	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：旧田中家住宅				

※写真撮影許可済

文化財指定名 旧田中家住宅

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
<p>荒縄が巻かれた大梁</p>	<p>気になる部位の写真</p>
 <p>煙返しの大梁をかける。 一年に一巻荒縄を巻く。 この本数から一八世紀末～ 一九世紀初めに建てられ、 大正末まで巻いたと伝わる</p>	 <p>屋根の傷みが気にかかる。</p>
文化財の由緒などを記入	法蓮造の歴史や特徴を記入
<p>旧田中家住宅は旧奈良法蓮村にあった、18世紀末～19世紀初め頃の建築と推定される現存最古の「法蓮造」とみられる建築で、3室を一行に並べて表側のザシキと土間の境を土壁とする古い形式の間取りを示す。1982(昭和57)年に解体保存され、1990(平成2)年に現在地に移築、復原された。 なお、屋外にあった便所と風呂は復原していない。</p>	<p>江戸時代の法蓮村(現法蓮町)は市街地である奈良の町に隣接する農村であった。法蓮村の農家は、町家の様に奥行きが深い宅地に隣家と軒を並べて建っていた。正面には町屋風の法蓮格子と呼ばれる丸太の格子を設けた。土間の低い位置に「けむりがえし」の大梁を架けたり、屋根を扱首組くさずぐみ(合掌)、草葺きにする点などは奈良に見られる一般農家と同じだが、法蓮造は町家と農家の要素が見られるのが大きな特徴。</p>